



“曾我道”たどり曾我詣で



『曾我物語』ゆかりの地マップ②

JR入山背駅（静岡県）周辺を中心に、曾我八幡宮など兄弟たちが祀られた場所が残る。とりわけ曾我寺は、東海道から北へそれた「曾我道」という道を通り、兄弟の墓参りをする旅人が訪れたという。



曾我の馬蹄石

仇討ちのため鷹ヶ丘（現富士市鷹岡）まで来た兄弟は、道端の石に馬の足をかけて祐経がいたとされる方角を睨んだという。その際馬の足をかけていた石に跡がついたとされる。

五郎の首洗い井戸

五郎は鎌倉へ連れていかれる途中で首を刎ねられたというが、その首を洗ったと伝えられる井戸。現在は枯れているが、当時は「念力水」と呼ばれていたという。

首洗い井戸は住宅街にあって少しわかりにくい。富士市作成のウォーキングルートに組みこまれているから看板がでているよ！それを目印に進むんだ！

姫宮神社

五郎の想い人であったとされる、化粧坂の少将を祀った神社。松風通沿いに小さな社がひっそりと建っている。

曾我寺（福泉寺）

正式名称は福泉寺だが、曾我兄弟の墓がある寺として、「曾我寺」の名で親しまれている。本堂には兄弟の木像など、ゆかりの品が多く安置されている。



曾我兄弟の墓

玉渡神社

十郎の恋人、虎が祀られている。仇討ちの3ヶ月後、兄弟の霊を鎮めるためこの地を訪れ小さな祠の前で休んでいた虎は、曾我寺の方角からふたつの火の玉が飛んでくるのを目撃する。その火の玉が兄弟の魂だと思った虎は、祠に籠り念仏を唱えた。後に、この地に村人たちが玉渡神社を建てたという。

曾我八幡宮

仇討ちを遂げた兄弟の志に感心した頼朝が、家臣である岡部泰綱に命じて兄弟を祀るために建立したとされる神社。境内には、空を飛ぶ雁の姿を見て涙を流す、幼い兄弟の像などがある。

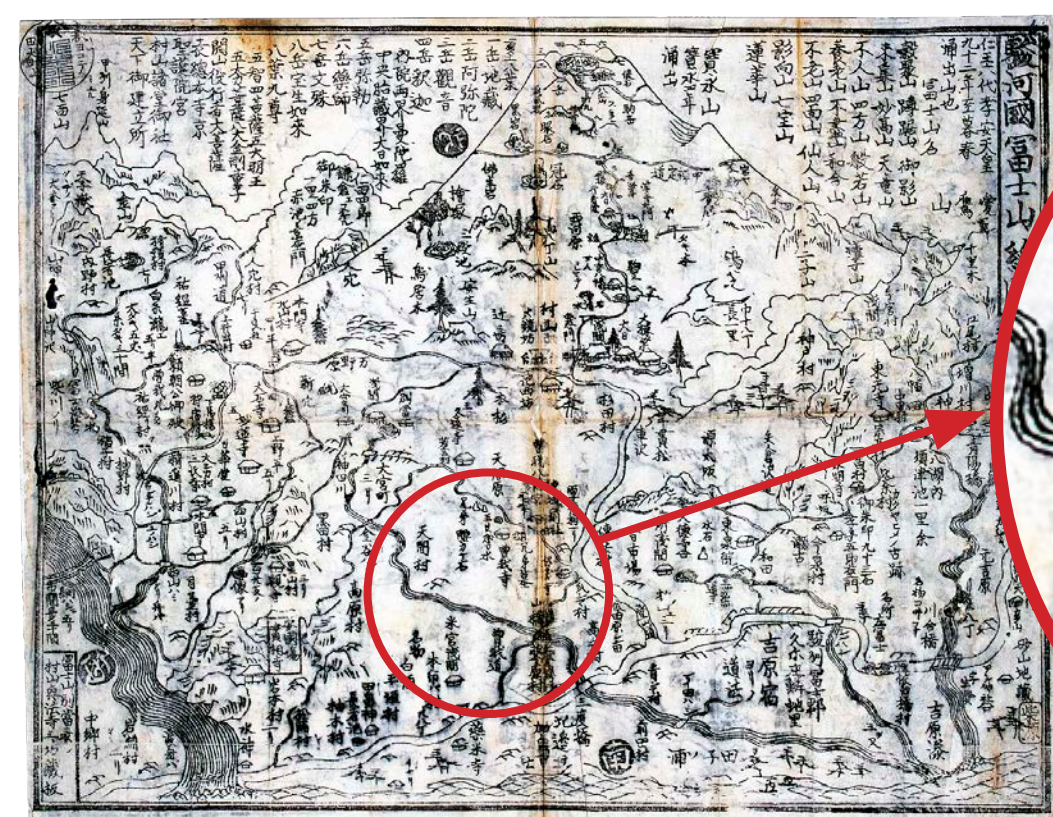


兄弟の像



からかさ木

巻狩の際、急な雨にあった頼朝はある村の大きな木の下で雨宿りをした。通りがかった老人に村の名を聞いたが、まだ名もないといわれたため、傘となった木から、「傘木村」と名付けたという。なお、現在ある木は4代目である。



「駿河国富士山絵図」村山興法寺三坊蔵板（富士山かぐや姫ミュージアム蔵）

富士山への登山ルートが描かれた絵図。東海道からそれて北に向かう道に「曾我道」と名前が明記されており、その先には「曾我寺」「兄弟墓」などと記されている。

富士市

曾我兄弟を祀った寺社以外にも、頼朝関連の史跡が多く残る地域。

曾我堂

昔、僧侶の夢に五郎の霊が現れたので僧侶は供養のためにこの堂を建てたという。なお、堂はもともと善得寺の境内にあったが、現在は十王子神社の境内に移されている。

虎御前の腰掛石・がっかり橋

兄弟を心配して後を追いかけた虎は、この地に差し掛かった時、ふたりが命を落としたことを知る。泣き崩れ近くににあった石に腰掛けたといい、その石が腰掛石として伝わり、また兄弟の死を知った時にいたという橋はがっかり橋と呼ばれている。



虎御前の腰掛石



令和3年度冬のテーマ展
「富士山のふもとのかまくら時代」
2021年12月11日（土）～2022年3月13日（日）

曾我兄弟だけでなく
頼朝ゆかりの地もまだまだあるよ！
詳しく知りたい人はぜひ
富士山かぐや姫ミュージアム（静岡県富士市）
の冬のテーマ展
「富士山のふもとのかまくら時代」
を見てみてね。